

PARNASSIUS

創立20周年記念号

No. 32

目 次

淡路昆虫研究会20周年に思うこと.....	奥 谷 禎 一.....	1
オオシモフリスズメの採集例.....	堀 田 久.....	2
ヒメチャバネトガリノメイガ.....	藤 平 明.....	2
兵庫県のツツハムシ.....	高 橋 寿 郎.....	3
モンシロモドキの採集記録.....	登 日 邦 明.....	11
洲本市由良小学校付近の昆虫類.....	堀 田 久.....	12
ヤマトクロスジヘビトンボ淡路島に産す.....	堀 田 久.....	15
淡路島中・南部地域の秋季直翅類観察記録.....	竹 田 俊 道.....	16
ミノウスバを洲本市下加茂で目撃.....	登 日 邦 明.....	18

淡 路 昆 虫 研 究 会

ENTOMOLOGICAL ASSOCIATION OF AWAJI

HYOGO JAPAN

April 1987

淡路昆虫研究会20周年に思うこと

奥 谷 禎 一

淡路昆虫研究会も同好会発足から数えて今年成人式を迎えることになった。昭和41年に淡路在住の熱心な昆虫愛好者が集まり、同好会として発足したのが始まりと聞いている。20年という月日も早いもので、設立当初の高校生諸氏も今では中堅として、それぞれの分野で活躍していることは慶賀にたえない。地方の小さな会は、資金難又は原稿不足で短命になりやすいが、会員諸氏の御援助と、会誌編集にたゆまない努力を払われた堀田・登日両先生に深く敬意を表わすものである。

さて、この20年間を振り返ってみると、同好会の誕生した頃からぼつぼつ自然保護熱が高まり、昭和46年に環境庁が発足した。また、兵庫県自然保護協会も産声をあげた。このような世の中の動きに応じて、淡路島の植生調査が、神戸女学院大学矢野悟道教授を中心として、25名のチームによって行われ、その成果は兵庫県より「淡路島の植生調査と生態的土地利用計画報告書、(1972)」として出版された。本調査は、既に巷間に流れていた本四架橋にそなえたものであり、また県自然課の初仕事であった。このとき、昭和8年の川原忠雄氏の記録以降不明であった八木村馬廻のヒメハルゼミが、論鶴羽山の山頂に残存するアカガシースダジイ林に産することが、同好会の主要メンバーであった武田義明氏によって確認された。さらに、この調査がもとになって、県の「自然環境の保全と緑化の推進に関する条例」によって、次のような指定が行われている。

自然環境保全地域：南淡町沼島神社、東浦町白山神社、一宮町伊装諾神社、三原町成相寺、津名町長谷。郷土記念物：淡路町大和島、一宮町明神岬、五色町新五色浜海岸自然石。自然海浜保全地区：洲本市安乎及び厚浜、東浦町久留麻。

このうち、五色浜の自然石は昆虫とはほとんど関係はないと思われるが、残りの九地点は多少とも昆虫と関係がありそうであるが、全く調査も検討も加えられていない。終りの自然海浜といっても、さんざん人手によって荒されたが、やっと砂浜があるので保護しようといった状況で、保護する目的は人々の遊び場としての意味が強いので、特殊な海浜性昆虫が生息し得るとは考えられない。しかし、自然環境保全地域は一応虫屋にも見すごすことのできない地域かと思われる。このように、一方では自然環境の保全に力を入れながら、他方では松枯れを防ぐ目的で殺虫剤の航空散布を行い生態系の破壊を進めていったのが、この20年かと思省させられる。

この次は、淡路島は本四架橋の影響をもろに受け、道路工事や、開発の波に洗われることになるであろう。そのはしりは、本州四国連絡橋公団による自然環境の事前調査である。1部は愛媛大学が受け持ったので、公表された成果を見られた方も多いと思うが、各種の調査会社によって行われたものは、なかなか見ることもできず、またどこでどんな会社が、あるいは人々が関係しているかを知ることさえも困難な状況である。このような事前調査で記録された昆虫類は「標本はどこに保存されているだろうか」、「同定は確かかしら」、「本当の生息種だろうか、など多くの疑問や問題点をかかえながら、消えてしまっている。淡路島のような狭い島でも、このような状報のすべてをつかむことは難しいであろうが、何とかして情報を入手し真疑を確かめることもこれからの研究会の宿題のように思える。

このような調査により発見されたもので、研究会の諸兄によって確認して頂きたい記録を紹介しておこう。

ヒメボタル：三原町成相寺附近（成相ダム拡張工事に係る事前調査、データを忘れたが標本を見ている）。淡路町茶間川水系（本四連絡橋公団の調査、58年8月3～5日、ヘイケボタルの誤りではないかと思う）。

本四連絡橋公団の58年11月の報告書には、淡路町より11目103科403種が報告されており同町松帆の溜池から記録されたアオヤンマ・ヨツボシトンボ、ナベブタムシ、オオトックリゴミムシ、カラゴミムシなどが注目される。

私も関西にずっと住んでいたから、多くの事前調査の資料を入手あるいは閲覧する機会にめぐまれ、淡路に関する情報を多く提供できたと残念に思っているが、県民会館にある県政資料室には、かなり揃っているのだから、時々調べに行かれることをおすすめする。
(神戸大学名誉教授)

オオシモフリスズメの採集例

筆者は下記のように、オオシモフリスズメ *Langila zenzeroides newai* を採集したので報告しておきたい。

1. 採集年月日 1984年4月10日
採集場所 洲本市安乎町平安浦
2. 採集年月日 1986年4月9日
採集場所 洲本市由良三丁目

(堀 田 久)

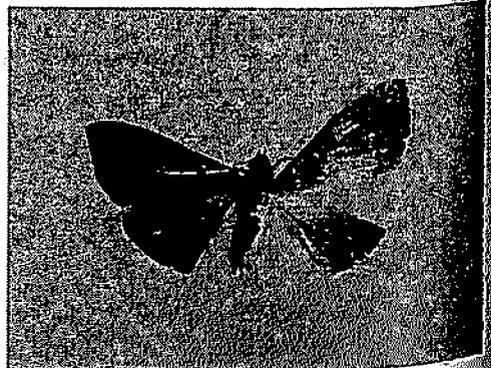
ヒメチャバネトガリノメイガ ?

写真のようにヒメチャバネトガリノメイガ *Hyalobathra undulinea* Hampson らしき個体を採集したので報告する。

外観から見れば本種に該当すると思われる。しかし、分布の記録では、屋久島、奄美大島、沖縄本島で4月と10月に少数とあるので、或は異なるかも知れぬが、*Hyalobathra* の仲間である事には違いないと思う。

最後になったが、本稿発表に当り色々ご指導願った登日邦明氏に深謝する。

データ： 兵庫県三原郡南淡町阿万吹上町
30. IV. 1986 (灯火採集)
参考図鑑： 日本産蛾類大図鑑 (講談社)



(藤 平 明)

兵庫県のツツハムシ

(兵庫県甲虫相資料. 160)

高橋 寿郎

ツツハムシ亜科 (Subfamily *Cryptocephalinae*) に属するハムシは仲々きれいな種を含んでいて日本には5属46種3亜種9型が現在知られている。本州にのみ分布しているのは4属30種3型である。兵庫県下にはその内4属19種が現在の所分布が確認されている。

この仲間は原色で中根猛彦博士は4属26種を図説 (1963)、木元新作博士は4属29種を図説 (1984) しておられるので主要な種は図説されていることになりこの類の同定は比較的楽になっていると考えられる。

筆者は此処にこのハムシ類の兵庫県下での分布状況を眺めて見ることにした。

Subfamily *Cryptocephalinae* ツツハムシ亜科

Genus *Adiscus* Gistel, 1837 タマツツハムシ属

1. *Adiscus lewisii* (Baly, 1873) タマツツハムシ

長崎を原産地としてBalyが *Dioryctus* 属で記載した種である (1873)。Roubal が Kobe 産で *Dioryctus ogloblini* として記載された種 (1929) は本種のシノニムである。更に Pic が日本産で *Dioryctus testaceipes* として記載された種 (1922) も本種のシノニムである。

成虫はクリ、クヌギ、コナラなどの葉を線状にかじる。卵は糞でつつまれ、幼虫は糞ケースに入ってから生長し、越冬することが知られている。雌は頭、前胸背が黄赤色、雌では黒い。

産地：洲本市先山(久松, 1974)*。川辺郡猪名川町内馬場(仲田, 1978, 1982)。川西市笹部(仲田, 1978, 1982)、能勢妙見山(2♀, 30-VII-1982)。Kobe [Roubal, 1929]。神戸市烏原(1♂, 11-VI-1939, 1♀, 6-VII-1941, T. Takahashi leg., Chujo, 1957) (4♂, 4♀, 6-VII-1941, 1♂, 14-VI-1974, 4♂, 4♀, 11-VI-1971, 1♂, 3♀, 4-VII-1980, 1♀, 17-VI-1981, 2♂, 1♀, 19-VI-1981, 1♂, 1♀, 24-VI-1981, 1♂, 2♀, 25-VI-1981, 1♂, 29-VI-1981, 1♀, 1-VII-1981, 1♀, 9-VI-1982, 1♂, 11-VI-1982, 2♀, 13-VI-1982, 2♀, 15-VI-1982, 2♂, 1♀, 17-VI-1982, 1♂, 16-VI-1982, 3♂, 3♀, 19-VI-1982, 1♀, 20-VI-1982, 1♂, 1♀, 27-VI-1982, 1♀, 13-VII-1982, 1♀, 15-VI-1982, 1♂, 14-VI-1983, 1♀, 29-VII-1983)。鈴蘭台大山公園(3♂, 3♀, 23-VI-1982, Y. Hachiya leg.)。須磨(1♂, 9-VII-1982, Y. Hachiya leg.)。宍粟郡音水(1♂, 20-VII-1959)。養父郡氷の山(2♂, 3♀, 27-VII-1957)。美方郡扇の山(辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975)。

Genus *Coenobius* Suffrian, 1857 ヒメツツハムシ属

2. *Coenobius piceus* Baly, 1874 クロヒメツツハムシ

Baly により長崎を原産地として記載された種である (1874)。

本種は大変小さい種で(体長2mm内外)、どうも不注意なのか県下での記録がほとんどない。もといそうに思うのだが調査をしなくてはならない種である(少くとも神戸市内では多い)。

*産地の所で〔 〕の中のものは記録の引用、()の中のものは筆者採集、標本所有のもの。尚記録に関する1981年までの文献は拙著「兵庫県産甲虫類に関する文献目録」改定版(自刊, 1981)を参照下さい

生活史などもほとんどわかっていないようであるし食草も不明。

産地：神戸市烏原(1 ex., 31-V-1966, 1 ex., 27-VII-1982, 1 ex., 30-VIII-1982, 1 ex., 26-VIII-1983, 2 exs., 29-VIII-1983, 1 ex., 14-IX-1983, 2 exs., 30-VII-1984). 氷上郡柏原(山本, 1953, 1958).

Genus *Cryptocephalus* Geoffroy, 1762 ツツハムシ属

3. *Cryptocephalus aeneoblitus* Takizawa, 1975 ルリツツハムシ

滝沢春雄氏はルリツツハムシのグループを検討され、ルリツツハムシの中に混じて新しい種がいることを見出されて之に命名されたのが本種である(1975)。♂の交尾器の形状は明らかにルリツツハムシと異なるし、外観上の区別は可成りお互によく似て困難であるが尾節板の形状が割合異なるのでなれば見別けられる。

次記ルリツツハムシと混じて産しているようで筆者の所有標本を1頭ずつ検して見たら次のように県下に広く分布していることがわかった。記載に用いられた標本の中にも六甲山産があるむね記録されている。

生態等についてはよくわからない。

産地：神戸市六甲山(Takizawa, 1975)、烏原(1 ex., 2-V-1972)、山の街(3 exs., 10-V-1959, 3 exs., 17-V-1953)、丹生町(6 exs., 5-V-1956, 1 ex., 18-V-1958)、谷上(1 ex., 7-V-1961)、藍那(1 ex., 28-V-1961)、箕谷(1 ex., 9-V-1948)、有馬(1 ex., 14-V-1967)、氷上郡柏原(1 ex., 10-V-1953)、神崎郡笠形山(4 exs., 12-VI-1966, 1 ex., 12-VI-1975)、相生市三濃山(1 ex., 3-V-1969)、宍粟郡音水(1 ex., 8-V-1973)、坂ノ谷(1 ex., 8-VI-1973)、養父郡氷の山(1 ex., 27-VII-1957)。

4. *Cryptocephalus amicus* Baly, 1873 キアシチビツツハムシ

Lewis のコレクションの中にある長崎産1頭の標本で新種記載された種であるが同時に東シベリアの Angara 河沿産の2頭の標本もまた有していると書いている(1873)。中根博士(1963)、木元博士(1984)がそれぞれ原色で図説しておられる。

県下での記録がほとんど無い。調査不充分と考えられる。食草にハシバミが知られている。

産地：美方郡扇ノ山[高橋, 1975]。

5. *Cryptocephalus approximatus* Baly, 1873 パラルリツツハムシ

本種は Baly により長崎を基産地に記載された種である(1873)。

極めて普通に産する種で県下の分布も広い。成虫は4月頃に現れバラ、クリ、フジ、カマツガ、サクラ、エゴノキ、ハギ、イタドリなど非常に多くの葉を食べている。卵は黄色で糞に包まれて地面に落される。幼虫も野外では種々の葉を食べて成長し、糞ケース内で越冬し3月頃蛹になる。生態については湯浅氏(1934)、氷富氏(1953)の報文に詳しい。

産地：津名郡開鏡(1 ex., 24-V-1942)、愛宕山[大野, 1969]、洲本市先山[大野, 1969、堀田, 1978]、安乎町[堀田, 1959]、三原郡成相峠[大野, 1969]、川辺郡猪名川町上河古谷、木間生[仲田, 1970, 1978, 1982]、川西市山原、笹部[仲田, 1970, 1978, 1982]、宝塚市北佐曾利(3 exs., 13-V-1983)、武庫川畔(1 ex., 24-IV-1983)、神戸市御影[関, 1933]、

鳥原(1 ex., 18-VI-1939, 1 ex., 15-VI-1939, 1 ex., 28-V-1953, 1 ex., 2-V-1954, 1 ex., 4-VI-1980, 1 ex., 14-VI-1980, 1 ex., 9-V-1981), 小部(1 ex., 10-V-1942), 山の街(1 ex., 2-V-1954, 4 exs., 13-V-1954, 3 exs., 16-V-1954, 2 exs., 30-V-1954, 1 ex., 29-IV-1958, 8 exs., 10-V-1959, 1 ex., 2-VI-1959, 2 exs., 28-V-1978), 箕谷(1 ex., 6-V-1948, 1 ex., 11-V-1942, 7 exs., 9-V-1948, 1 ex., 24-VI-1948, 12 exs., 17-V-1953, 2 exs., 5-V-1955), 丹生山(1 ex., 5-V-1956, 1 ex., 18-V-1958), 谷上(2 exs., 25-V-1958), 五社(1 ex., 28-VI-1959), 芦谷溪谷(1 ex., 11-VI-1982). 多可郡三谷(1 ex., 8-VI-1975, 2 exs., 24-V-1975), 鳥羽(2 exs., 1-VI-1975, 3 exs., 8-V-1976). 神崎郡笠形山(1 ex., 25-VI-1975), 大河内町川上(1 ex., 21-V-1977, 2 exs., 15-VI-1977). 相生市三湊山(1 ex., 3-V-1969, 1 ex., 3-V-1970, 1 ex., 24-IV-1974). 宍粟郡水谷(3 exs., 20-VI-1976), 音水(Kimoto et Hiura, 1964) (2 exs., 11-VI-1972, 3 exs., 25-VI-1972, 1 ex., 3-VI-1973, 1 ex., 13-V-1973, 3 exs., 24-VI-1973, 1 ex., 3-VI-1975, M, Yuma leg.). 氷上郡(山本, 1953, 1958), 相原(2 exs., 10-V-1953). 出石郡出石町寺坂(高橋, 1963), 豊岡市大岡山, 愛宕山(高橋, 1975). 養父郡氷の山(1 ex., 25-VI-1955, 1955, 2 exs., 27-VI-1957, 1 ex., 21-VI-1958) (高橋, 1975). 美方郡扇の山(辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975).

6. *Cryptocephalus confusus* Suffrian, 1854 チビルリツツハムシ

従来 Baly によって変種 B は対馬産, タイプと変種 A は Chusan 産でどちらも A. Adams の採集品で記載された *C. discretus* (1873) として扱われた種が 1983 年木本博士により Suffrian が Dauria 産で記載した(Linn. Ent., 9:140, 1854) 表記種のシノニムになるとされた。

中根博士(1963), 木本博士(1984) のそれぞれ原色による図説がある。

県下では広く分布している種と考えられる。生活史その他に就いての詳しい報告は見当らなかった。

産地: 洲本市鮎屋(大野, 1969). 川辺郡猪名川町民田(仲田, 1978, 1982). 川西市笹部(仲田, 1978). 神戸市六甲山(1 ex., 5-VI-1956), Mt. Maya (Kimoto, 1964) 二十渉(1 ex., 26-VI-1955), 鳥原(1 ex., 26-VI-1983, 2 exs., 28-VI-1983), 山の街(1 ex., 30-V-1954, 2 exs., 7-VI-1959), 金剛童子山(2 exs., 24-V-1956), 丹生山(1 ex., 5-V-1956). 藍郡(1 ex., 9-VI-1978), 逢山峡(1 ex., 2-VI-1982). 朝来郡生野(5 exs., 8-VI-1956). 養父郡氷の山(4 exs., 27-VI-1956, 1 ex., 27-VI-1954).

7. *Cryptocephalus fortunatus* Baly, 1873 キアシルリツツハムシ

Hiogo, Japan: also Chusan, として A. Adams がもって来た標本によって記載された種である(1873).

背面は全緑色で光沢強く, 触角, 肢, 頭が黄褐色の美しい種である。個体数がそれ程多いとは思はないが広く分布しているようである。バラ, イタドリなどを食べる。卵を藁でつつむ。幼虫は藁ケースに入り成長し, 2 月下旬ごろ蛹化し, 4 月初旬羽化したと(竹中, 1975)。

産地: 川西市笹部(仲田, 1978, 1982). Hiogo (Baly, 1873). 神戸市六甲山(1 ex., 15-VI-1956), 鳥原(3 exs., 2-VI-1957), 山の街(1 ex., 13-VI-1954, 2 exs., 1-VI-1958, 1 ex., 7-VI-1959, 1 ex., 29-V-1976), 丹生山(1 ex., 18-V-1958), 箕谷(2 exs., 23-V-19

38, 1 ex., 6-VI-1948). 氷上郡青垣町稲土〔高橋, 1960〕. 神崎郡大河内町川上 (3 exs., 2-VII-1977). 夫粟郡音水 (1 ex., 20-VII-1959, 1 ex., 20-VII-1969, 1 ex., 25-VI-1972). 養父郡氷の山 (1 ex., 21-VII-1958) 〔高橋, 1975〕. 美方郡扇の山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕.

8. *Cryptocephalus fulvus* Goeze, 1777 ウスクロスジツツハムシ

Goeze がヨーロッパから記載された種である (Ent. Beytr. 1: 321, 1777). 中国からは Chen が記録している (1942). Gressitt, 木本両博士は「支那. 朝鮮のハムシ」の中で分布をヨーロッパ, シベリア, 北支とされた (1961). この綜説で中條博士が朝鮮から記載された *C. fuscolineatus*, 1940なる種を本種のシノニムとされている. ところで中條博士はこの *C. fuscolineatus*, を新潟県 (Kimoto) から記録しておられる (1956). これによって本種が日本の本州に分布していることになる. その後木本博士の「日本と琉球諸島のハムシ」の中で細田義人博士が武庫川畔で1951年8月11日採集された7 exs. を記録された. さらに木元博士は原色で図説もしておられる (1984).

県下での記録は今の所これだけである. 筆者も未採集でありよく調べ直さなければいけない種である.

産地: 西宮市武庫川〔木元, 1964〕.

9. *Cryptocephalus japanus* Baly, 1873 ヤツボシツツハムシ

横浜産と産地のはっきりしない標本で他に Moor から受けとっているもの, それと Chusan (A. Adams より) の標本によって新種記載をされた (Chusan産は変種としている).

成虫は4月頃から現れるが県下では個体数がそう多い種のようにではない. クリ, クヌギ, カシワ, コナラ, イタドリなどの葉を食べて糞で卵をつつんで地上に産み落される. 野外の幼虫は糞ケースにはいりおもにイタドリの枯れ葉などを食べて成長していると.

産地: 宝塚市武田尾〔木元, 日浦, 1971〕. 神戸市御影〔関, 1933〕, 六甲山 (1 ex., 10-VII-1938), 有馬 (1 ex., 14-V-1967). 氷上郡柏原, 神楽村〔山本, 1953, 1958〕. 養父郡氷の山 (1 ex., 24-VII-1955).

10. *Cryptocephalus kiyosatonus* Kimoto, 1964 モモグロチビツツハムシ

木元博士により栃木, 山梨, 長野各県と北海道産を基産地として新種記載された種である (1964). 原記載において述べられているが本種は *C. amicus* と極めて良く似ていて, ♂交尾器は明らかに異なるが♀に於いては形態上で明確に区別するのは大変むづかしい. ただ僅かに後腿節はほとんどの場合黒色味を帯びていることを掲げられている.

兵庫県からは木元, 日浦両氏により氷の山から記録 (2 exs., 9-VII-1967, Miyatake, Y., leg.) があるがその他で全く知られていなく再調査の要のあるハムシである.

産地: 養父郡関宮町福定~氷ノ山〔木元, 日浦, 1971〕.

11. *Cryptocephalus limbatipennis* Jacoby, 1885 キベリクロツツハムシ

Jacoby が「Shimonosawa (Suwa Lake)」産1頭で記載された (1885). 東 正雄氏が *C. bilineatus* Linnaeus var. *moriwakii* として岩湧山産で記載された変種 (1940) はこの種のことである.

兵庫県産のこの種に関しては最近筆者詳しく報告しているので(1982)それを参照して頂きたい。
産地：川辺郡猪名川町松生新田〔仲田, 1979, 1982〕。宍粟郡音水(1 ex., 21-V-1972)。水上郡柏原〔山本, 1953, 1958, Kimoto, 1964〕。養父郡氷の山(1 ex., 25-VI-1950)。美方郡浜坂町〔高橋, 1975〕。

12. *Cryptocephalus nigrofasciatus* Jacoby, 1885 クロスジツツハムシ

Nowata, Matsida, Fukin, road to Oyama, Wada toge, の各地を基産地として新種記載された種である(1885)。

そう多くいる様には思われない。調査不十分とも思われる。食草はハシバミ、ヤマハギ、ヤナギの類が知られている。

産地：川辺郡猪名川町松生新田〔仲田, 1979, 1982〕。神戸市六甲山(4 exs., 10-VI-1955) 水上郡柏原〔山本, 1953, 1958〕。城崎郡日高町金山(高橋, 1975)。養父郡氷の山(1 ex., 25-VI-1955, 1 ex., 27-VI-1957, 1 ex., 25-VII-1959)〔木元, 日浦, 1971〕。大久保～鉢伏高原〔木元, 日浦, 1971〕。

13. *Cryptocephalus nobilis* Kraatz, 1879 ヨツモンクロツツハムシ

Kraatz によってシベリアから記載された種である(Dtsche. Ent. Zeitschr. 23(2):132, 1879)。

日本からは Jacoby が G. Lewis が Kiga, Suyama and Subashiri から得ているとして図を示して記録された(1885)。

大変はっきりした斑紋を有し(黒色で触角基部は黄褐色、上翅の4紋は黄色)ているので美しい種であると共に極めて区別もしやすく、中根、木元両博士による図説がふ々ある(1963, 1984)。

兵庫県下での個体数は少い。食草としてはコナラやウズミザクラなどが知られているがハシバミの葉を食べても生長すると云われている。卵は糞ケースに入って成長し、幼虫で越冬し、翌春羽化すると。

産地：川辺郡猪名川町民田〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市谷上(1 ex., 3-V-1957)。太山寺(1 ex., 6-V-1957)。有馬(1 ex., 14-V-1967)。城崎郡三川山〔高橋, 1976〕。

14. *Cryptocephalus obliquostriatus* Motschulsky, 1866 セスジツツハムシ

Motshulsky により日本から記載された種である(1866)。Balyが長崎から記載した *C. perm-odestus*, 同時に記載した *C. amatus* (日本産)(1873), この種に *C. inurbanus* の名を与えた Halold の報文(1874)の種総て本種のシノニムになる。他に *C. consalanus* Baly (1874) 並びに Jacoby が記録した *C. fuleratus* (1885), Clavareau の *C. parvulus* (1913) も共に本種と同一種である。

兵庫県下では比較的広く分布しているようである。

ハンノキ、シデ、ポプラ、ハギなどを食べ飼育ではイタドリ、ハギの枯れ葉をとわず食べて生活したとある。幼虫は糞ケースに入って生活する。

産地：三原郡成相峠〔大野, 1969〕。川辺郡猪名川町槻並(1 ex., 4-V-1979)。川西市葦生〔仲田, 1982〕。宝塚市武庫川畔(3 exs., 24-VI-1983)。神戸市保久良山(1 ex., 1-V-1975), 山の街(1 ex., 30-V-1954), 烏原(1 ex., 16-V-1971, 1 ex., 12-V-1973, 1 ex., 14-V-

-1980, 1 ex., 3-V-1983, 1 ex., 2-VI-1983), 金剛童子山 (1 ex., 24-VI-1956), 藍那 (1 ex., 22-V-1978, 2 exs., 29-V-1981, 1 ex., 8-VI-1978). 加東郡東条町森 (1 ex., 18-V-1984, 3 exs., 7-VI-1984, 2 exs., 22-VI-1984). 多可郡白山 (3 exs., 27-V-1973). 神崎郡大河内町川上 (1 ex., 4-VI-1977). 宍粟郡坂の谷 (1 ex., 22-VII-1979).

15. *Cryptocephalus perelegans* Baly, 1873. キボシツツハムシ

長崎産でBalyによって記載された (1873). 中條博士は奄美大島, 石垣島, 西表島産のものを *ver. insulanus* と記載された (1935), 後亜種に取扱っておられる (1954). 与那国島にも亜種 *subsp. yonaguniensis* Kimoto (1974) を産する. この種の南西諸島に分布しているものには斑紋の変化が多く木元博士は図入りで詳しく報告されている (1974, 1979).

南方系の種のように本州ではどの様に分布しているのかよくわからなかった. また本州での斑紋の変化もどうなっているのか不十分である. 最近本種に大変良く似たムツキボシツツハムシ *C. ohnoi* Kimoto が東京の奥多摩産で記載されている (1983) (共に木元博士の原色図説がある, 1984).

食草としてはクスノキ, ナラ, カエデ, モクダチバナ, イタドリが知られていて, 竹中氏はイタドリ, クリの枯れ葉, 新葉をとわず食べ成長したと述べておられる (1975).

本州の県下産に就いては最近筆者が詳しく述べている.

県下での産出状況は依然と神戸市内で極く普通に見られるが他の産地が家島以外わかっていない. もっと広く分布しているように思われる. 産地では1982年に記録した以外のものについて掲げておく.

産地: 飾磨郡家島 [上田, 1981]. 神戸市烏原 (1 ex., 9-VI-1982, 1 ex., 10-VI-1982, 1 ex., 11-VI-1982, 2 exs., 13-VI-1982, 2 exs., 15-VI-1982, 2 exs., 16-VI-1982, 2 exs., 17-VI-1982, 5 exs., 18-VI-1982, 3 exs., 20-VI-1982, 4 exs., 21-VI-1982, 5 exs., 24-VI-1982, 6 exs., 26-VI-1982, 2 exs., 28-VI-1982, 6 exs., 2-VII-1983, 1 ex., 8-VII-1983)

16. *Cryptocephalus scitulus* Baly, 1873 オオクロスジツツハムシ

‘Hiogo (on oak)’ 産でBalyが記載した種である (1873).

可成りはっきりとした色彩をしているので同定に困ることは無い. 中根, 木元両博士の原色図説がある (1963, 1984).

カシワツツハムシとして知られていた種で食草としてはコナラ, カシワが知られている.

本種の県下産については最近筆者も報告した (1982).

県下には広く分布しているようである.

産地: 三原郡諭鶴羽山 [久松, 1974]. 川西市大和 [仲田, 1978, 1982]. Hiogo [Baly, 1873]. 神戸市六甲山 (1 ex., 10-VII-1955), 布引 (1 ex., 17-V-1959), 烏原 (1 ex., 27-VII-1974, 1 ex., 30-VI-1983, 1 ex., 2-VII-1983), 鈴蘭台大山公園 (1 ex., 16-VII-1982), 1 ex., 23-VII-1982, Y. Hachiya leg). 氷上郡柏原, 神楽村 [山本, 1953, 1958]. 城崎郡但馬 [高橋, 1975]. 宍粟郡水谷 (6 exs., 17-VII-1981), 音水 (1 ex., 15-VII-1973). 養父郡氷の山 (1 ex., 24-VII-1956). 美方郡扇ノ山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972].

17. *Cryptocephalus signaticeps* Baly, 1873 クロボシツツハムシ

本種は Nagasaki, China 産で Baly によって記載された種である (1873)。

大変多く、良く目につくハムシで普通種として県下にも広く分布する。食草としてはクヌギ、クリ、ハンノキなどが知られている。

産地：津名郡開鏡 (5 exs., 24-V-1942), 愛宕山〔大野, 1969〕, 津名町大町〔堀田, 1978〕, 三原郡諭鶴羽山, 成相峠, 鮎屋〔大野, 1969〕, 大日ダム〔堀田, 1978〕, 洲本市先山〔大野, 1969, 堀田, 1979〕, 川辺郡猪名川町木間生〔仲田, 1978, 1982〕, 川西市笹部, 横地〔仲田, 1978, 1982〕, 宝塚市宝山寺〔木元, 日浦, 1971〕, 武庫川畔 (1 ex., 24-VI-1983), 西宮市香櫛園 (3 exs., 1-V-1941), 神戸市磨耶山〔後藤, 1955〕, 保久良山 (2 exs., 1-V-1975), 烏原 (2 exs., 18-VI-1939, 3 exs., 17-V-1942, 1 ex., 23-V-1948, 2 exs., 9-V-1952), 山の街 (2 exs., 29-IV-1957, 3 exs., 10-V-1957), 箕谷 (3 exs., 18-V-1948, 3 exs., 18-V-1950, 1 ex., 11-V-1952), 丹生山 (4 exs., 5-V-1956), 谷上 (2 exs., 3-V-1959, 5 exs., 29-IV-1958, 1 ex., 25-V-1958), 小部 (5 exs., 10-V-1942), 加東郡東条町森 (6 exs., 11-V-1984), 多可郡白山 (1 ex., 3-V-1973), 三谷 (1 ex., 24-V-1975), 鳥羽 (1 ex., 12-VI-1975), 神崎郡笠形山 (1 ex., 12-VI-1975), 大河内町川上 (3 exs., 7-V-1977, 1 ex., 4-VI-1977), 飾磨郡家島〔上田, 1981〕, 相生市三濃山 (2 exs., 3-V-1969, 2 exs., 28-IV-1974, 1 ex., 18-V-1974), 宍粟郡水谷 (1 ex., 17-VII-1981), 福知溪谷 (2 exs., 20-VII-1976), 音水 (1 ex., 20-VI-1959, 1 ex., 24-VI-1973, 1 ex., 3-VI-1975, M. Yuma leg.)〔木元, 日浦, 1964〕, 坂の谷 (2 exs., 9-VI-1973), 氷上郡〔山本, 1953, 1959〕, 養父郡氷の山〔高橋, 1953, 1959〕, 関宮町大久保谷川〔木元, 日浦, 1971〕, 美方郡扇ノ山〔辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1971〕。

18. *Cryptocephalus tetrdecaspilotus* Baly, 1873 ジュウシホシツツハムシ

本種は Baly により長崎産で記載された種である (1873)。成りのはっきりとした斑紋を有するので同定は困難ではない。中根, 木元両博士の原色による図説がある (1963, 1984)。

県下の本種に就いては最近筆者も解説している (1982)。食草はマルバハギが知られている。

県下の分布は広いようであるが一度に多くの採集は難しいようである。たゞ川西市内では多産する報告がある (仲田, 1979)。

産地：洲本市安乎町〔堀田, 1959〕, 川西市一の鳥居寒天干場〔木元, 日浦, 1971〕, 東畦野寒天干場〔仲田, 1979, 1982〕, Kobe〔木元, 1964〕, 神戸市烏原 (1 ex., 25-VI-1958), 大池 (1 ex., 3-VII-1940), 加東郡東条町森 (1 ex., 20-VII-1984, Y. Hachiya leg.), 神崎郡大河内町川上 (1 ex., 23-VII-1977), 氷上郡柏原〔山本, 1953, 1958〕, 朝来郡段ヶ峯〔木元, 日浦, 1964〕, 出石郡味尾山〔高橋, 1963〕, 養父郡氷の山 (2 exs., 25-VII-1955, 1 ex., 27-VII-1956), 鉢伏山〔高橋, 1975〕。

Genus *Pachybrachys* Redtenbacher, 1845 ホソツツハムシ属

19. *Pachybrachys eruditus* Baly, 1873 ホソツツハムシ

Baly により長崎を原産地として記載された (1873)。

県下での個体数はそう多くない。食草としてはハギ, ヤナギ類が知られている。また幼虫は糞ケースに入って生活をしている。

産地：川西市妙見山上〔仲田, 1978, 1982〕, 神戸市六甲山 (1 ex., 10-VII-1955, 1 ex., 23-VII-1968), 遠山峽 (1 ex., 2-VII-1982), 鈴蘭台大山公園 (1 ex., 23-VII-1982, Y. Hachiya leg), 須磨 (2 exs., 9-VII-1982, Y. Hachiya leg), 水上郡神楽村〔山本, 1953, 1958〕, 朝来郡段ヶ峯〔木元, 日浦, 1964〕, 養父郡関宮町大久保～鉢伏山高原〔木元, 日浦, 1971〕, 鉢伏山〔高橋, 1975〕, 美方郡扇ノ山〔辻, 岸田, 1972〕。

以上一応兵庫県産のツツハムシ19種の分布を眺めて見た。県下に満遍なく広く分布している種もあれば産地がほとんど知られていない種とか産地は少ないがその産地ではいくらかでも採集出来る種とかまだまだ調査の不充分の点が多々あるようだし上記以外に県下に分布している種もいるように思われたりしてまだまだ調査努力をしなくてはいけないことを痛感している。

参 考 文 献

(兵庫県関係のものは拙著『兵庫県産甲虫類に関する文献目録改定版, 追加篇 I, 1981, 1984を参照下さい)。

- 東 正雄, 1940. 昆虫研究 3(2): 29-30.
- Baly, J. S., 1873. Ent. Soc. London Trans. 1873: 69-99.
- 1874. Ent. Soc. London Trans. 1874: 161-217.
- Chen, S. H., 1942. Sinensia 13: 109-124.
- Chujo, M., 1935. Nat. Hist. Soc. Formosa Trans. 25: 69-80.
- 1940. Nat. Hist. Soc. Formosa Trans. 30: 383-398.
- 1954. Taiwan Mus. Quart. Jour. 7 (3/4): 137-248.
- 1956. Rep. Nagaoka Municipal. Sci. Mus. Niigata Pref. I: 1-28.
- Chujo, M. & Kimoto, S., 1961. Pacific Insects 3(1): 117-202.
- Clavareau, H., 1913. W. Junk Coleop. Cat. Chrysomelidae, Pars, 53.
- Gressitt J. L. & Kimoto, S., 1961. Pac. Ins. Mon. 1A: 1-299.
- Harold, E. V., 1874. Col. Heft. 12.
- Jacoby, M., 1885. Zool. Soc. London, Proc. 1885: 190-211.
- Kimoto, S., 1961. 昆虫 29(3): 159-166.
- 1964. Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ., 13(1): 141-164.
- 1974. 昆虫 42(3): 270-282.
- 1979. 南の島の生きものたち (共立出版株式会社).
- 1983. Ent. Rev. Japan 38(1): 45-54.
- 1984. 原色日本甲虫図鑑 (IV) (保育社).
- Motschulsky, V, de., 1866. Soc. Imp. Nat. Moscou Bull. 39(1): 164-200.
- 氷富 昭, 1953. 昆虫 20 (1/2): 6-10.
- 中根猛彦, 1963. 原色昆虫大図鑑, II (北隆館).
- Pic, M., 1922. Mel. Exot. Ent. 35: 14.
- Roubal, J., 1929. Soc. Ent. Italiana, Boll. 61 (5/6): 96-98.

- 竹中英雄, 1975. 学研中高生図鑑, 昆虫II (学研).
 Takizawa, H., 1975. Kontyu 43(4): 422-436.
 温浅啓温, 1934. 植物及動物 2(9): 111-112.

[追 記]

最近磯野昌弘氏は美方郡浜坂町味原から本州新記録になるクロアシヒメツツハムシ *Coenobius picipes* Gressitt, 1942の産を報告しておられる(木元新作博士同定) (IRATSUME 16, 8/9, P. 87, 1985). これによって兵庫県産のツツハムシは20種となる.

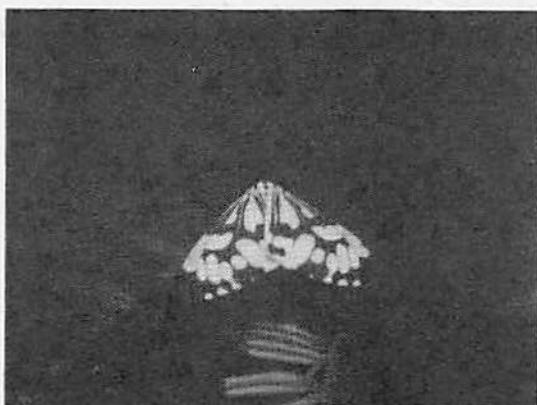
(1-VI-1985)

モンシロモドキの採集記録

淡路島では、モンシロモドキ *Nyctemera adversata* (Schaller) は、藤平 明氏によって南淡町灘から記録されたのを筆頭に、阿万でも2頭採集され(藤平, 1979), その後、洲本市畑田で筆者も採集した(本誌No13, 1974). また、林 俊雅氏によって洲本市宇山でも採集されており(登日, 1981, 本誌No24), これまでに合計5頭が確認されている.

筆者は1986年8月12日に、南淡町灘山本から諭鶴羽山へ登る途中、本種を採集したので、その際に撮影した写真を添えて記録しておく.

南淡町灘山本 (Nada-Yamamoto, alt, 200m), 1♀, 12. VIII. 1986 (K. Tobi leg.).
 尚、標本は筆者が保管している.



(登 日 邦 明)

洲本市由良小学校付近の昆虫類

堀 田 久

筆者は、昭和59年4月より由良小学校に勤務しているが、子供達に少しでも自然の美しさや不思議さにふれさせ、自然を大切にする豊かな心を持たせたいと考えて、職員室前に昆虫の標本や草花を展示してきた。そのうちに、子供達が学校内や学校の近くで見つけた小動物を持ってくるようになった。ここでは、これまでに確認した昆虫類について報告しておきたい。

直 翅 目 Orthoptera

1. オンブバッタ *Atractomorpha bedeli* Bolivar
13. IX. 1985, 17. IX. 1985
2. トノサマバッタ *Locusta migratoria migratoria* Linne
1. VII. 1985
3. クダマキモドキ *Holochlora japonica* Brunner von Wattenwyl
24. IX. 1985
4. ウスイロササキリ *Conocephalus chinensis* Redtenbacher
13. IX. 1985
5. ウマオイ *Hexacentrus unicolor* Servile
13. IX. 1985
6. クサキリ *Homorocoryphus lineosus* Walker
14. IX. 1985
7. クビキリギス *Euconocephalus thunbergi* Stal
13. V. 1986
8. カマドウマ *Diestrammena apicalis* Brunner von Wattenwyl
12. VII. 1985
9. エンマコオロギ *Gryllulus testaceus* Walker
17. IX. 1985
10. イエコオロギ *Gryllodes sigillatus* Walker
17. IX. 1985
11. ミツカドコオロギ *Loxoblemmus doenitzi* Stein
20. IX. 1985
12. コマカマキリ *Statilia maculata* Thunberg
21. X. 1985
13. ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera* Servile
20. IX. 1985, 18. X. 1985

トンボ目 Odonata

1. ハグロトンボ *Calopteryx atrata* Selys
15. VII. 1986
2. クロイトトンボ *Cercion calamorum* Ris
9. VII. 1985, 12. VII. 1985
3. ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* Selys
9. VII. 1985
4. ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys
25. VI. 1985
5. オオヤマトンボ *Epophthalmia elegans* Brauer
19. VI. 1985, 18. VI. 1986, 1. VII. 1986
6. オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania* Selys
5. VII. 1985
7. シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum* Uhler
18. VI. 1985, 19. VI. 1986
8. コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* Burmeister
12. VII. 1985
9. ヒメアカネ *Sympetrum parvulum* Bartenef
18. VI. 1985

半翅目 Hemiptera

1. アオクサカメムシ *Nezara antennata* Scott
21. VI. 1985
2. ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi* Fabricius
12. VII. 1985
3. アブラゼミ *Graptopsaltria nigrofuscata* Motschulsky
15. VII. 1985
4. ツマグロオオヨコバイ *Bothrogonia japonica* Ishiara
6. V. 1986
5. アオバハゴロモ *Geisha distinctissima* Walker
2. IX. 1985

脈翅目 Neuroptera

1. ヘビトンボ *Protohermes grandis* Thunberg
19. VI. 1986

甲虫目 Coleoptera

1. マイマイカブリ *Damaster blaptoides* Kollar
20. IV. 1985
2. コクワガタ *Macrodercas rectus* Motschulsky
8. VI. 1985, 13. VII. 1985, 16. VI. 1986

3. ヒラタクワガタ *Dorcus titanus* Boisduval
20. VI. 1985
4. カブトムシ *Eophileurus chinensis* Linne
13. VII. 1985, 15. VII. 1986
5. ハナムグリ *Cetonia pilifera* (Motschulsky)
17. V. 1986
6. アオハナムグリ *Cetonia roelofsi* Harold
21. VI. 1986, 1. VII. 1986, 10. VII. 1986
7. コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* Faldermann
11. VII. 1985, 17. V. 1986, 27. V. 1986
8. カナブン *Rhomborrhina japonica* Hope
18. VII. 1985
9. セマダラコガネ *Blitopertha orientalis* Waterhouse
12. VII. 1986
10. ジョウカイボン *Athemus suturellus* Motschulsky
13. V. 1986
11. コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus nigrovittatus* Clark
26. V. 1986
12. ヨツボシモンシテムシ *Nicrophorus quadripunctatus* Kraatz
22. V. 1986
13. ヤマトタマムシ *Chrysochroa fulgidissima* Schonherr
21. VI. 1985, 1. VII. 1985
14. ヒメカツオブシムシ *Attagenus japonicus* Reitter
20. V. 1985, 24. V. 1986
15. ウバタマコメツキ *Paracalais berus* Candeze
28. V. 1986
16. クシコメツキ *Melanotus legatus* Candeze
27. VI. 1986
17. オオコクヌスト *Temnochila japonica* Reitter
19. V. 1986
18. ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata* Linne
5 VI. 1985, 6.V. 1986
19. テントウムシ *Harmonia axyridis* Pallas
5. VI. 1985
20. ヒメアカボシテントウ *Chilocorus kuwanae* Silvestri
1. V. 1986
21. キマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus* Motschulsky
1. VII. 1985

22. ツマグロカミキリモドキ *Nacerdes melanura* Linne
22. VI. 1985
23. ノコギリカミキリ *Prionus insularis* Motschulsky
24. VI. 1985
24. クロカミキリ *Spondylis buprestoides* Linne
24. VI. 1985
25. ベニカミキリ *Purpuricenus temminckii* Guerin-Meneville
2. V. 1985
26. ヘリグロベニカミキリ *Purpuricenus spectabilis* Motschulsky
13. V. 1986, 16. V. 1986, 26. VI. 1986
27. ヤハズカミキリ *Uraecha bimaculata* Thomson
17. VI. 1985
28. シロスジカミキリ *Batocera lineolata* Chevrolat
11. VI. 1986, 13. VI. 1986
29. ゴマダラカミキリ *Anoplophora malasiaca* Thomson
18. VI. 1986, 19. VI. 1986, 26. VI. 1986, 3. VII. 1986,
12. VII. 1986
30. ウリハムシ *Aulacophora femoralis* Motschulsky
9. VII. 1985
31. クロウリハムシ *Aulacophora nigripennis* Motschulsky
18. VII. 1985
32. フジハムシ *Gonioctena rubripennis* Baly
9. V. 1986
33. オジロアシナガゾウムシ *Mesalcidodes trifidus* Pascoe
2. V. 1985

ヤマトクロスジヘビトンボ淡路島に産す

ヤマトクロスジヘビトンボ *Parachaulides japonicus* MacLachlan は、これまで淡路島から記録されていなかったようであるが、筆者は下記のように本種を採集したので報告しておきたい。

採集年月日 1986年5月24日
採集場所 洲本市由良三丁目

(堀 田 久)

淡路島中・南部地域の秋季直翅類観察記録

竹 田 俊 道

1986年、9月13日～15日、直翅類研究グループが、論鶴羽ダム憩いの広場・三原町サイクリングターミナルセンターで合宿を行ない、筆者も参加して、論鶴羽ダム周辺、論鶴羽山、阿万吹上ノ浜、福良湾周辺、先山等の調査を行なった。

島内未記録を含め、多くの成果をあげることができたので、以下にその結果を記した。

尚、報告するにあたり、大部分を河合、市川両氏のまとめを転載させて頂いたこと、又、声による種の同定は、その道の権威・松浦一郎氏によった事を、併せておことわりする。

本来、学名を併記するのが、たてまえであろうが、まだ研究段階で、学名の記されていないものも種々あり、詳細は今後に変更するとして、今回は和名のみを列挙するにとどめる。

9月13日、論鶴羽ダム周辺

バッタ

トノサマバッタ、ヒナバッタ、オンブバッタ、ハラヒシバッタ

キリギリス

セスジツユムシ、ヤマクダマキモドキ、サトクダマキモドキ、ハヤシノウマオイ、ハタケノウマオイ、クサキリ、ツユムシ、セスジツユムシ、

コオロギ

エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、モリオカメコオロギ、ミツカドコオロギ、ツツレサセコオロギ、クマコオロギ、クマスズ、スズムシ、マツムシ、カンタン、ヤマトヒバリ、クサヒバリ、カヤヒバリ。

その他、この日、由良地区で、ヒメクダマキモドキ（採集）、台湾エンマコオロギ（鳴声）を、加納氏が確認。

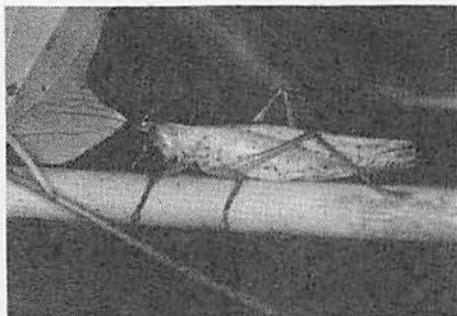
9月14日・論鶴羽山（上田池ダムより・頂上・灘方面下山の行程を含む）

バッタ

セトウチフキバッタ・オンブバッタ・ヤセヒシバッタ・ノセヒシバッタ・モリヒシバッタ・ヒナバッタ・ショウリョウバッタ・ツチイナゴ（幼虫）

キリギリス

サトクダマキモドキ、ヤマクダマキモドキ、ヒメツユムシ、ヒメクサキリ、ヒサゴクサキリ（食痕多し）、ウマオイ、アシグロツユムシ、オナガササキリ、ヒメギス、ハヤシウマ、マダラカマドウマ（幼虫）、コバネコロギス、ササキリモドキ（SP）。



ヒサゴクサキリ(♀)——福良にて——

(Photo: 桂 孝次郎)

オオロギ

エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、モリオカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、クチナガコ
オロギ(声)*、マダラスズ(声)、ヒメスズ、シバスズ(声)、ヒゲシロスズ(声)、ヤマトヒバリ、ク
ラスズ(声)、クマコオロギ(声)、ミツカドコオロギ、アオマツムシ(声)、マツムシ(声)、アシジマ
カネタタキ。

その他

エダナナフシ、ヒナカマキリ(幼虫多し)ハラビロカマキリ、モリチャバネゴキブリ、キスジゴ
キブリ。

吹上ノ涙

バッタ

ヤマトマダラバッタ、クルマバッタモドキ、ヒナバッタ、トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、
ショウリョウバッタモドキ。

キリギリス

キリギリス(声)、セスジツユムシ、ツユムシ(幼虫)、ホシササキリ。

コオロギ

ハマスズ、シバスズ、エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、ハラオカメコオロギ、マツムシ。

福良浜周辺

バッタ

オンブバッタ、ショウリョウバッタ、ショウリョウバッタモドキ。

キリギリス

ヒサゴクサキリ(産卵が見られた)、シブイロカヤキリモドキ(幼虫)、セスジツユムシ、ハヤ
シウマオイ、ヤブキリ、キリギリス、ミドリササキリモドキ、オナガササキリ、コバネコロギス。

コオロギ

ヤチスズ(声)、クチナガコオロギ、ツツレサセコオロギ、ハラオカメコオロギ、モリオカメコオロ
ギ(声)、エンマコオロギ、クマコオロギ(声)、クサヒバリ、アオマツムシ(声)、マツムシ(声)、ヒロバ
ネカンタン。

9月15日・先山

バッタ

サトウチフキバッタ、イボバッタ、ヒロバネヒナバッタ(幼虫)

キリギリス

ササキリモドキ(SP) ♂♀、ヤマクダマキモドキ、サトクダマキモドキ、ヤブキリ、ヘリグロ
ツユムシ、ウオマイ、ヒメツユムシ、ハヤシウマ、ハネナシコロギス。

コオロギ

ツツレサセコオロギ(声)、カンタン。

その他

エダナナフシ、ヤスマツトビナナフシ、ヒナカマキリ(幼虫)。

(*)は鳴き声による確認。

ミノウスバを洲本市下加茂で目撃

ミノウスバ *Pryeria sinica* Moore は、マダラガ科に属する独特の形態をした昼飛性の蛾であるが、晩秋に発生し余り人目を引かないためか、これまで淡路島からは僅かしか記録がなく、堀田久氏(本誌 No.26, 1982)によって洲本市物部と中川原町からそれぞれ数頭が知られている程度であった。

筆者は1986年11月18日に、洲本市下加茂の柳学園高校校庭で本種を1頭目撃したので、記録しておきたい。写真撮影の後に採集するつもりであったが、残念ながら見失ってしまった。

(登 日 邦 明)

編 集 後 記

▽1966年に発足した本会も昨年で20周年を数えました。この間、多くの会員の方々から暖かい励ましとご支援をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

▽本号は'85年に発行を予定しておりましたが、編集子の種々な事情により大幅に遅れ、今日に至ってしまいました。早くから原稿をお寄せ下された奥谷先生はじめ会員の皆様にご迷惑をお掛けしたことを、深くお詫びします。

▽淡路島の自然は近年、本四連絡橋・大鳴門橋の開通、縦貫道路の建設・一部開通、洲本市炬口海岸の埋立計画、洲本市内田をはじめとする関西新空港の土取り計画等々でまさに蚕食状態であり、島の未来、そして私達の未来についても深く考えさせられるこの頃です。

▽何かと慌ただしい世の中ですが、時の流れに流されてしまわないよう心して、これからも地道に虫達をはじめ島の自然を記録して行きたいと思っております。今後共ご支援ご協力をお願いします。(T)

PARNASSIUS No. 32

1987年4月3日 印刷

1987年4月6日 発行

編集者 登日邦明

発行所 淡路昆虫研究会

〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235 登日方

郵便振替 神戸7-49591

印刷所 れいめい社

〒656 兵庫県洲本市本町5丁目1-24